

事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報

		事業番号	0145/150705/03/00	事業の種類	4
年度	19	事務事業名	高齢者デイサービス事業	作成日	平成21年1月20日
重要度	4	予算事業名	高齢者デイサービス事業	担当部課名	健康福祉課
政策名			すこやかに暮らせる、心かようまちづくり		
施策名			高齢者福祉	実施計画への記載	無
				主要事業の指定	無
根拠法規及び関連法規	老人福祉法				
事業の目的	誰のために(具体的に)	家に閉じこもりがちな高齢者			
	誰(何)を対象として	家に閉じこもりがちな高齢者			
	意図(どのような状態にしたいのか)	社会的孤立感を解消し、要介護状態に陥るのを防止する。			

2 事業の概要 Do

実施の概要	2週間に1回程度、利用者をデイサービスセンター等へ集め、健康チェック・入浴サービス・給食サービス等を行いながら一日を過ごさせ、高齢者同士のコミュニケーションを高める。					
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	デイ延利用者数	人	1,594	1,095	877	930
	デイ延利用回数	回	2,839	1,972	1,563	1,860
	ミニデイ延利用者数	人	869	874	737	990
	ミニデイ延利用回数	回	1643	1,793	1,521	1,980

3 投入資源

		会計区分	一般会計		事業費単位:円				
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	0.045	0.045	100.0	0.030	66.7	0.030	100.0	
	臨時職員			-		-		-	
支出内訳	人件費	1,358,028	1,100,544	81.0	1,000,615	90.9	955,932	95.5	
	事業費	12,087,530	9,699,200	80.2	7,887,300	81.3	9,729,000	123.4	
	合計	13,445,558	10,799,744	80.3	8,887,915	82.3	10,684,932	120.2	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金	0	0	-	0	-	0	-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	13,445,558	10,799,744	80.3	8,887,915	82.3	10,684,932	120.2	
合計	13,445,558	10,799,744	80.3	8,887,915	82.3	10,684,932	120.2		

4 評価指標

【有効性】

指標名1	延べ利用者数の増減								
指標説明(式)	延べ利用者数の増減(デイ・ミニデイ)								
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
人	目標	3,180	2760	86.8	2,640	95.7	1,920	72.7	
	実績	2,463	1,969	79.9	1,614	82.0			

指標名2	延べ利用回数の増減								
指標説明(式)	延べ利用回数の増減(デイ・ミニデイ)								
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
回	目標	6,360	5,520	86.8	5,280	95.7	3,840	72.7	
	実績	4,482	3,765	84.0	3,084	81.9			

【効率性】

指標名1	利用1回あたりの事業コスト								
------	---------------	--	--	--	--	--	--	--	--

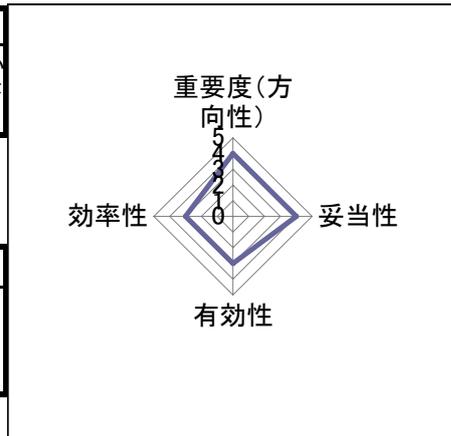
指標説明(式)		総費用／延べ利用回数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績	3,000	2,868	95.6	2,882	100.5	2,783	96.6	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	閉じこもり防止策としての妥当性はあるが、より有効な手段について検討の余地はある。	3	4
	市民ニーズ	孤独になりがちな高齢者間で仲間づくりができるため、これが魅力的で利用する者が多い。		
有効性	成果目標(改善)達成度	介護保険制度優先であるため施設の受入人数が減少傾向にある。また、介護認定者については、幅広いサービス利用が可能であるため、介護保険制度での利用に移行しつつある。	3	3
	市民サービス	閉じこもり防止により心身の健全化を図ることで、対象者が要介護状態に陥る危険性を軽減できる。		
効率性	コストの節減	委託料を見直し17年度よりデイサービスが3,100円、ミニデイが2,000円と減少しているが、平成21年度に改正される介護給付費を考慮した適正な委託料の検討が必要。	3	3
	手段の最適性	コスト低減と、より有効な手段の観点から、検討する。		

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	コストの節減	平成16年度以降、当事業に対する補助金が廃止されたため、平成17年度について見直しを行ったが、平成21年度に改正される介護給付費を勘案しながら、更なるコスト削減に向け、制度改正を含む委託料及び負担金の見直しを要する。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	市民サービス	利用対象者の適正化を図る。

H19→H20予算反映額

(2) 20年度の実施方針

高齢者が在宅で自立した生活を送るために必要なサービスであり、継続実施する。

検討の有無	-
総合指標	20